



本部長による学校訪問

入間地域事務所（所長 村上二空尉）は、防衛大学校学生の更なる質の向上や学校説明会の開催を目的として、担当地域に所在する埼玉県立川越高等学校の学校長に表敬訪問を実施した。

「自主自立」を校風とし、「文武両道」を教育目標に掲げ、ノーベル物理学賞受賞者を輩出している川越高校において、同行した本部長からは、川越高校出身で活躍されている航空自衛隊幹部自衛官の話や皮切りに、防衛大学校の説明、防衛大学校出身の防衛駐在官の活躍や自衛隊の各種活動を踏まえつつ、自衛隊における実情など、自衛隊の魅力やアピールし、その重要性について説明した。

川越高校学校長からは、近年の学生の傾向や特性などを具体的に説明いただいた。進路担当教師からの少しでも難関（偏差値の高い）大学を受験することを勧めるが、学生は何のためにその大学に行くのか何を学びに大学に行くのか深く考えて大学を選ぶ傾向が近年特に強くなってきており、その傾向は女子学生に強くみられるとのことであった。また、防衛大学校学生生活の実情・進路の決定時期、自衛隊の新型コロナウイルス対策についての質問もあった。

終始、和やかな雰囲気での懇談となり、相互理解を深める濃密な時間となった。今年度だけではなく、次年度以降も受験者獲得の手応えを感じさせた。埼玉地本入間地域事務所では今後本部長によるトップセールスを利用し、学校との信頼関係をより深め、志願者の獲得につなげていく。



定年退職予定者への就職援護説明会開催

自衛隊埼玉地方協力本部援護センター（援護班長 小田林明友二等陸尉）は令和三年九月十六日（木）及び十七日（金）、埼玉地域援護センター（大宮駐屯地内）で、今年度二回目となる定年退職予定隊員就職援護説明会を開催した。

今回の説明会は令和四年七月から九月までの間に定年退職する幹部（三佐以下）と准曹を対象にしたもので、埼玉県内に就職を希望する十名の隊員が参加し、現在の雇用情勢をはじめとした、若年定年者の再就職を取り巻く環境についての理解促進を図った他、就職援護の要領について説明した。その後、援護センター員と自衛隊援護協会東京支部主幹が各退職予定隊員と個別に面談し、それぞれの希望を確認しながら、再就職に向けての取り組み方や適職に関する参加した隊員からは、「再就職活動に向けての心構え、ライフプラン構築の重要性及び一般企業への就職にあたっての意識改革ができ、大変参考になった。」との声が多数寄せられた。

埼玉地本では、今後も退職予定隊員に親身に向き合い、退職予定者の様々なニーズに応え、退職後の生活の安定に寄与する質の高い援護を目指していくとしている。

